

法人の神戸事業所がスタート

～デイサービスが4月1日から神戸ろうあハウスが6月1日から、法人の経営に～

4月1日のデイサービスに続いて6月1日から就労支援B型事業所「共同作業所神戸ろうあハウス」は、NPO法人神戸ろうあ協会より経営を引継ぎました。当法人の神戸での事業展開の第一歩です。作業所がスタートして17年。当初6名でスタートしたなかまも24名に増え、作業所も狭くなりました。なかまも家族も高齢化してきている状況の中、生活の場の確保が必須です。さまざまな課題を抱えながらも、利用者、家族、職員と一丸となり、運営しています。また、神戸市には、多様なニーズを抱えているろう者・中途失聴難聴者に対応できる社会資源が不足しきわめて貧困です。一般就労したい人、交流の場を求めている人、独り暮らしがしたい人など、一人ひとりが自分らしくゆたかな生活をおくるために、神戸ろうあハウスを拠点とし、関係団体と連携しながら、取り組んでいきたいと思えます。法人の神戸拠点として、頑張りますので、今後ともよろしくお願ひします。(神戸ろうあハウス 野村)



ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの郷 広報委員 会

洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551

ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/hyoufuku/>

6月4日は「虫歯予防デー」ですが、過去には大きな出来事がありました。89年民主化要求運動に集まる数百万人の群集の中に装甲車が突入し武力鎮圧した「天安門事件」です。そして今年黒人の人権回復運動に貢献したモハメド・アリ(元ヘビー級王者)がなくなりました。

神戸ろうあハウスデイサービスセンターは、神戸市の委託事業「生きがい対応型(閉じこもり防止)、介護予防型」を受けて、市内の3ヶ所で行っています。現在、利用登録は3ヶ所合わせての46名です。「ろうあ高齢者の集える場所」ということで、年齢が65歳に満たない人、介護保険のサービスを受けていて登録できないという人も来られています。一人一人の利用者さんのお喋りや趣味活動、介護予防を通して明るく元気な「日々の生活の張り合い」に繋がると思っています。上は92歳から下は55歳と約40歳の年齢幅がありますが和気あいあいと過ごされています。一般の療養施設に入所され、そこから一ヶ月に一度来ている方や介護保険のサービスを受けながら通所されている方もおり、生きがいデイサービスの重要性はもとより、新たな事業展開の必要性を痛感しています。(デイサービス 眞木)

行事・予定

- 6/25 (土) ふくろうの郷 10年の「故人を偲ぶ会」
10周年祝賀会 (兼 第34回兵庫県ろうあ者大会)
(淡路インターナショナルホテル ザ・サンプラザ)
- 7/2 (土) ふくろうバーベキュー大会
- 7/23 (土) 理事会
- 7/17 (日) 流しそうめん (主催: ふくろうの郷中川原地域交流委員会)
- 9/22 (土) 理事会・評議委員会
- 10/23 (日) ふくろうの郷 10周年記念 第11回ふれ愛まつり

BBQ大会のお知らせ

「熊本復興支援の牛肉」と
「マグロの解体ショー！」

日時: 7月2日(土)

16:00~19:00

場所: 淡路ふくろうの郷

参加費: 大人 1000円・子供 500円

たくさんの参加をお待ちしています!!

決算理事会・評議員会報告

新たに神戸ろうあハウスの経営・生活介護職員の確保へ全力を！！

5月28日(土)神戸市中心身障福祉センターにおいて、平成27年度の事業報告・決算について話し合う理事会・評議員会が開催されました。

平成27年度事業報告

法人としていちばん大きな取り組みは、NPO法人神戸ろうあ協会と、神戸ろうあハウス及び生きがい対応型デイサービスの経営移管に向けての協議です。結果、生きがいデイは4月1日から、神戸ろうあハウスは6月1日から法人に経営移管され、法人の神戸の拠点として期待されています。また神戸ろうあ協会の「神戸市聴覚障害者総合福祉センター」建設運動に対応した事業面での準備のため、「神戸市聴覚障害者福祉センター準備室」を設置し、職員を配置しました。

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターについて

平成30年完成予定の中川原スマートインターチェンジの設置に伴い、地域の皆さまの地域活性化の願いにわずかなりとも参加・貢献できるように事業を展開してまいります。

淡路聴覚障害者センターのとりくみ

淡路市の手話言語条例の制定について要請を受けて、手話言語条例検討委員会の委員として理事長が委嘱され、「淡路市聴覚障害者市民交流センター(仮称)」の設置に繋げる条例の必要性を提起しました。淡路ふくろうの郷では、介護報酬の削減などで福祉職を志す人々の意欲を奪っている現状の中で、年間を通して常に職員不足の状態が続きました。そのようななかで、「入居者の人生から学ぶ」ことをテーマとして創設した「ふくろうまなびあい文庫」の①②③が完成しました。

決算報告

平成27年度は1千万円以上の赤字予算でスタートしましたが、職員不足による人件費の削減や、事業費、事務費などの支出が予算以下に抑えられたため、結果として2,700万円の黒字となりました。

社会福祉法人改革について

改革が目指すねらいを理解し、準備を進めてきました。そのなかで、近畿地域の聴覚障害者関係福祉法人・運動団体との連携や、兵庫レベルでも公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会との協議を開始し、制度後退や変化にどのように対応していくかが、平成28年度の大きな課題となっています。

定款変更・他

年度途中で正規職員を採用することに対応した給与規程、昨年12月から法制化されたストレスチェック制度実施規程の制定、施設長代行の選任や法人事務局長の選任などについて審議されました。(事務局長 橋詰恭子)

ひょうご聴障ネット 発足から10年を迎え

2015年度ひょうご聴障ネット総会は、5月8日午前10時から15時30分まで三宮の神戸市勤労会館で、来賓・会員150人で支援金によって児童デイ事業の開始など聴覚障害者福祉事業の拡充についての熱意もつた報告や今後の事業活動・会員の輪を広げる意見交換がされました。

10年間を通じて「手話カフェ」の運営や寄付など熱心な活動をされました個人や団体に感謝状と作業所製の記念品が贈られました。総会後は毎年の「アピールパレード」では会場から元町の大丸前まで「聴覚障害者も暮らしやすい兵庫県を」「災害時の情報保障」などを訴えました。当福祉法人関係では、この総会を持って辞任される三根一乗代表委員の後任に大矢暹理事長が、また新規役員として神戸ろうあハウスの野村洋子管理者が承認されました。



ふくろう物語⑤

高橋雅子様



高橋雅子さんは、大正8年にお生まれになった方です。

ここふくろうの郷に、はじめてこられたのは、平成23年の6月、短期入所の利用を経て、平成24年10月より長期入所の運びとなり、木ユニットで生活をされていました。

変形拘縮をお持ちで、活動に参加されることは少ない方でしたが、ユニットで穏やかに過ごされていました。

お部屋やユニットリビングでお話をするとき、高橋さんがお話になるのは決まってご家族の方のお話でした。

あの子は優しくてね、あの子は頭がよくて...と、本当にうれしそうに息子、娘自慢をされていました。そんな優しい高橋さんですが、平成28年3月頃から体調が思わしくない状態になりました。終末期であると主治医から診断を受けて家族に説明の際、ユニットリーダーも同席できたことで、家族とともにどのようにならうかと一緒に考えることができました。

高橋さんの体調をみながら、食べれる範囲で好きな物を食べていただくことと家族にも協力をもらいながら食事提供を進めるこ

とができました。

さる平成28年5月9日に愛した家族様に見守られながら、御年97歳で逝去されました。高橋さんの看取りケアを通してたくさん学びを得ることができました。入居者の看取りとどう向き合っていくべきか、毎日毎日考えながら一日一日大切に過ごしていただけるように支援していきたいと思えます。ご冥福をお祈り申し上げます。

消防署の指導のもと総合避難訓練

淡路ふくろうの郷では年に2回の防災訓練を実施しています。今回は、新しい職員を中心に夜間設定での避難訓練です。訓練のあと消防点検が行われ以下の2つの指摘を受けました。☆月ユニット誘導灯について ☆非常電話のFAX音について。

兵庫学習会

第一回「福祉法人改革と総合支援法見直し」

大阪聴覚障害者福祉会
佐藤修常務を迎えて

兵庫県聴覚障害者協会の経営する事業所

☆兵庫県聴覚障害者

情報センター(指定管理)

☆但馬豊岡・姫路・尼崎・西宮などでの就労支援事業(継続B型)、児童デイ(但馬)

☆地域活動支援センター(西宮)

当福祉法人の新規経営

☆就労支援神戸ろうあ

ハウス(継続B型)

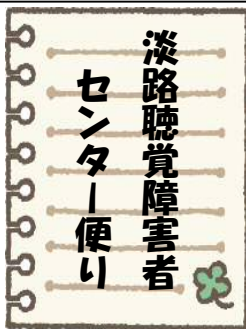
☆神戸市引きこもり

予防デイサービス

福祉法人の改革と総合福祉法の見直しという背景の中で、2つの団体がそれぞれ担ってきた福祉事業の現状と課題、実態調査の提言に基づく目標や役割と連携の在り方などを巡り、本年度から定期協議を行ってきました。そして5月11日に神戸市総合福祉センターにて学習会を開催しました。事業所の職員や団体役員など30人が参加し、特に法人改革の内容についての理解を深めました。

施設長 大矢暹





洲本市港2-26
洲本市健康福祉館3階

仕事も協会の活動も 真面目にこなす

吉川勲さんは現在66歳。旅行が趣味で、孫の成長が楽しみな毎日です。淡路ろう学校から神戸ろう学校印刷科に進み、卒業後は島内の印刷会社に就職されました。真面目な性格で活字を拾っての製版や製本、印刷等の仕事をこなされてきました。会社に勤める傍ら淡路聴覚障害者協会の役員もされ、会長に就任されたこともあり、60歳を目前に会社の都合により退職。

まだまだ元気で仕事を探していたところ、淡路聴覚障害者相談支援事業所の紹介により就労継続支援A型事業所で仕事をすることになりました。A型事業所とは、事業所と雇用契約を結び、最低賃金も保障され、働く時間数によつては、医療保険や厚生年金にも加入できるという生活の安定も目指せる内容となつて

障害や年齢に関係なく能力を活かせる場を

います。生来の真面目な性格で5年あまり勤め、今年1月末、退職となりました。仕事を継続したいと希望し、A型事業所担当者も事業所としても続けてもらいたいと、行政に交渉してくれましたが、「65歳までと決まっている」と延長はできませんでした。体は元気だし、収入も必要だと一般就労を目指してハローワークに通い、求職活動中です。希望の仕事が見つかり、面談までこぎつけたこともありましたが、コミュニケーションが取れないからと雇用には結びつきませんでした。

まだまだ元気に働きたい

仕事が見つかるまで、65歳以上でも受け入れてもらえる就労継続支援B型事業所「おのこの家」に週3〜4回通所し、農作業で存分に力を発揮されています。65歳以上の人は障害福祉サービスより介護保険を優先するという取り決めがありますが、聴覚障害という特性や介護保険には就労支援がないことから淡路島内では65歳以上の方も個別判断により希望者全員の通所が認められています。しかし、B型は仕事



▲おのこの家のたまねぎ畑で作業する吉川さん

の割には工賃が安く、ガソリン代や食費を除くと残るのはわずかです。

今年4月には障害者雇用促進法が改正され、障害を理由とした雇用における差別的取扱いが禁止され、障害者が働きやすいように職場での合理的配慮が義務付けられました。また聞こえる人ならどんなに高齢となつても仕事をやる意欲があれば、仕事に就くことができま

5月15日、おのこの家と当センター共催で第2回目の社会生活教室を行いました。今回は休校になった小学校を利用してカフェや工房を開いている篠山市の『里山工房くもべ』を見学させていただきました。この施設は、「地元の手によつて小学校を拠点とし、地域を元気にしていきたい」という思いから、地元のお爺ちゃん、お婆ちゃんを中心となつて作られたそうです。建物内には小学校の教室や机、椅子をそのまま活用したカフェや工房、野菜の直売所がありました。

第2回 社会生活教室(社会見学) ～中川原を元気な地域に～



▲職人に話を聞きながら作業を見学する参加者

トインター開通後の地域活性化に向けてどんな内容で参加していきけるかを考えながら見学し、「職人と交流できる仕組みは参考になった」「校舎がバリアフリー化されておらず移動が大変だった。歩行が困難な人や高齢者にもやさしい施設がいい」「良いものを安く提供できるような施設が理想」等の感想がありました。

兵庫県自治体等 設置通訳者会議

5月20日、今年度第1回目の会議が県立聴覚障害者情報センターで開かれました。事業報告のあと、事例についてグループ討議が行われました。

ある市では、通訳者や市の福祉課職員が携帯電話を所持し24時間通訳派遣が可能な態勢をとっているようですが、通訳者や相談員の健康面への配慮など、考えていくべき課題はあります。

また、「カード会社へ電話通訳したとき、本人がいることを

伝えても通訳者を介してでは本人確認ができないということでも手続ができなかった。ある遊園地では両親がろう者だと放送が聞こえないため安全が確保できないからと入園を拒否された」など、聴覚障害者の生活に対する理解がまだまだ広まっていない事例が報告されました。このような問題は他にもあることが想像されます。差別解消法が施行された中、事例をたくさん集め全日本ろうあ連盟とも連携して運動を進めていきたいと嘉田所長が締めくくられました。

中川原高齢者・障がい者地域

ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2

玉ねぎ収穫始まる

(おのころの家農作業班)

5月27日より玉ねぎ収穫が始まりました。

5月中旬に一部の畑では、玉ねぎの茎が黄色く枯れ広がる一方でした。



(南あわじ市賀集の農場6にて)

おのころの家

社会福祉法人 ひょうご随覚障害者福祉事業協会

淡路たまねぎ直売!



丹精込め玉ねぎができました!
美味しい「淡路玉ねぎ」をお届けします。

1箱10kg入り 1,800円
送料 1,000円

(全国発送いたします、但し北海道・東京・沖縄は別料金に参ります。)

○申込期間:平成28年6月~8月
下記の申込書でFAXお待ちしております。
FAX&TEL 0799-28-0995
おのころの家農作業班



○振込先 郵便振替:記号14360 番号:64711071
金融機関:ゆうちょ銀行 店番:438 普通預金 口座番号:6471107
口座名義:おのころ工房(オノコロコウボウ)
※振込確認して発送します。

申込先:おのころの家農作業班
〒656-0002 兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
FAX&TEL 0799-28-0995

コープともしびが ふれあいセンター視察

5月30日(月)コープともしびボランティア振興財団主催の「1day視察バスツアー」in淡路島企画に当ふれあいセンターも選ばれ47名という大人数が視察に來られました。短い時間でしたが、おたがいさま中川原・ふれあい広場桜ヶ丘での活動を中心に説明させ

新職員の紹介・抱負

(支援員 田中ひとみ)

5月からおのころの家で働いています。田中ひとみと申します。神戸市出身で、結婚する時に田舎暮らしがたくて長野県へ引越してきました。家は、淡路市一宮で家族は、旦那・高校2年生と小学6年生の男子の四大家族です。

今は、毎週和太鼓と国生み神楽の練習、子どものバスケットボールを楽しんでいます。今まで、色々な仕事を経験してきましたが福祉関係は初めてです。知識も全くなく、わからないことだらけなので、迷惑をかけてしまうこともあるかもしれません、どうぞ長い温い目で指導していただければと思います。

六月から、一宮で短期間の手話の講習に行きます。一生懸命

ていただきました。視察者からは「こんな活動・場所があればいいな」「どんどん高齢化が進む中でこのような活動が全国に広がればいいのに」などの感想をいただきました。今後ますます高齢化が進み、介護保険制度も厳しくなる中、ふれあいセンターでのような取り組みはますますじゅうようになつてくるのではないのでしょうか。(濱田)

勉強して、皆さんと仲良くなつてコミュニケーションを取りたいです。一人一人、みんな得意不得意があると思います。自分のできる事を見つけて少しずつでも成長できるように毎日を通していきたいと思つています。どうぞよろしくお願ひします。(左から1番目の田中職員)



生田村そば打ち体験に参加した仲間たち

